

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、未来を切り拓き地域創生に資する水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（新たに取り組む項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新しい「京都府教育振興プラン」の推進 2 府立高校産業教育充実事業の有効活用 3 コミュニティ・スクールの推進と地域創生に資する人材育成 </div>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全職員による一致した指導により生徒が規範意識を重んじ、自律的に調和のとれた高校生活を送っている。 2 実践的な教育活動により、全国の水産・海洋高校の学習・研究活動をリードしている。 3 進路について、就職では関連分野を中心に19年連続100%内定、進学では国公立大学（28年連続）をはじめ幅広い分野の大学・専門学校等に合格した。 4 生徒の多くが意欲的に資格取得に取り組み、レベルの高い資格を保持する生徒が増えている。 5 ほとんどの生徒が何らかの部活動に加入し、高校生活の充実に努めている。 6 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）並びにコラボ推進プログラムに京都府北部の児童・生徒が多数参加し、水産業や海洋産業への理解を深めた。 7 生徒会活動並びに図書館活動の充実により、生徒が多様な価値観をもち、学習・研究活動の幅が広がっている。 8 新型コロナウイルス感染予防の取組を通じて新しい生活様式が定着し、保健衛生に係る意識と生活スキルが向上した。 9 コロナ禍における学びの保障に努め、概ね教育目標を達成することができた。併せて、教育のデジタル化に一定の進捗があった。 <p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主体的な生活の促進と公共心の育成 2 個に応じた指導の推進と指導状況の共有 3 家庭・下宿・寮における好ましい生活の支援 4 ICT利活用とBYODに向けての準備 5 広報活動の質の向上と効果的な生徒募集 6 新学指導要領実施に向けたカリ・マネ、評価の充実 7 アフターコロナを見据えた教育活動の更新と進路保障 8 ボランティア活動等、コロナ禍以前の特色ある取組の継承 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 普通・専門教育の充実と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個に応じた指導・学びを充実させ、学びに向かう主体性を育む。 (2) 教育のデジタル化に対応しつつ、協働的・対話的な学びを促す。 (3) 授業（実習）改善と海洋プロジェクトの充実により、進路の選択・決定における自己実現を支援する。 (4) 思考力・判断力・表現力の醸成を基に、校内の連携や課題の共有に努めながら、探究活動の質をより向上させる。 (5) 関連産業や外部機関等とのつながり及び地域人材の活用を充実させることで、何が出来るようになるかを展望させ、地域創生に結びつける。 (6) 読書活動・図書館活動の充実を図る。 2 基本的生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。 (2) 道徳性や規範意識を大切に、状況に応じた行動（ふるまい）ができる人間性を育む。 3 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。 (2) 日常的な声かけに努め、成長を確かめ合いながら自己有用感を育むとともに主体的な行動を促す。 (3) 互いの個性や多様性を認め合い、生かしながら共に学ぶ仲間づくりを進める。 4 安心・安全・衛生管理の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認を怠らず、安全第一を徹底する。 (2) 生活全般において法やルールを守り、他者を思いやる気持ちを行動につなげる能力や態度を育成する。 (3) 新しい生活様式を定着させ、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。 5 広報活動の充実と家庭・地域との連携強化 <p>専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。</p> 6 職場改革の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員それぞれが仕事（ワーク）と生活（ライフ）について見直し、望ましい時間配分（バランス）を考え、子どもと向き合える時間を確保するとともに、学校職員としての資質向上と生活改善に努める。 (2) 職員がお互いを慮り合いストレスの軽減に務めるとともに、業務の共有・協働・分担、分掌等の枠にこだわらないOJT、スキルの伝承を推進する。

各分掌等

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	個に応じた指導の推進と指導状況の共有等を通じ、教育活動の充実を図る。	・学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進行状況を点検・共有等することにより、高い達成状況を実現する。		
	本校の魅力を積極的に発信するとともに、志願者数の増大を図る。	・学校説明会等で、特色ある教育活動・専門教育の魅力を中学生及びその保護者に発信することにより、持続的な観点での志願者数の増加を図る。		
	家庭・下宿・寮における好ましい生活の支援を図る。	・寮、下宿担当者及び教職員間の連携を密にし、諸課題の共有と解決に努める。		
総務企画部	専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。	・「HP・海洋だより・学校説明会」を軸に、受け手（保護者、中学生等）を意識した内容の精選や質の向上等を図り、本校の魅力を効果的に発信する。		
	系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。	・系統的な人権教育を推進するために、次の4項目を掲げる。 ①計画的な人権学習・人権講演会の実施 ②人権だよりの発行 ③文化委員会の人権啓発の取組 ④道徳教育取組とまとめ		
教務部	カリキュラム・マネジメントの推進	・履修内容の精選や履修順序の変更等に留意した年間学習指導計画、指導シラバスを編成し、各科目の円滑な授業進行を目指す。		
	新学習指導要領を踏まえた観点別評価への対応と教科指導力の向上	・公開、研究授業への参加や、観点別評価等の新学習指導要領への円滑な移行を目的とした研修を実施し、教員の指導力と生徒の学力向上を目指す。		
	ICT活用を推進し、社会のデジタル化への対応	・教職員のICT機器の活用を推進することで、生徒の授業理解を促し、生徒の満足度の向上に繋げる。		
	読書活動を通じた内面の成長の促進とことばの力の育成	・読書活動を推進して生徒の健全な成長を促すことで、学校生活をより充実したものとする。		
生徒指導部	生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。	・個に応じた指導の推進と指導状況の共有を図る。		
		・生徒自らが規範意識やモラルを高める取組を組織的に推進する。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導部	学年部及び関係分掌・コースと連携し、進路実現に向けての統一した指導を実践し、希望進路を実現させる。	・進路検討会議等で進路に関する情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路を実現させる。		
保健部	学校生活を安心安全に送ることができるよう継続的な感染予防対策を定着させる。	・各分掌と協力し学校生活の中での感染症予防対策の定着を目指す。検温や健康観察、出欠席などの情報収集を適切に行い、生徒の健康状態の把握に努める。		
	事務部と連携し校内点検を行い、改善が必要な箇所の早期発見に努め、学校の衛生環境の充実に努める。	・事務部と連携し、定期的な校内点検を行う。		
	支援を必要とする生徒に対して、情報のとりまとめを行い各分掌と連携したきめ細かい支援に努める。	・迅速なケース会議、教育相談会議の開催に努力し、学年部、SCと連携し個別の支援が必要な生徒の支援内容の共有化を図る。		
事務部	協働的・対話的な学びを促すため、教育のデジタル化に対応できる施設設備等を充実させる。	・施設、設備、物品の現況を把握する。 ・双方向通信環境を整備する。		
	職員の資質向上と生活改善を図る。	・事務部としての総実労働時間の縮減に努めながら、研修の充足を図る。 ・センター研修等の府主催の研修受講を推進するとともに、校内自主研修を実施する。		
みずなぎ	全ての航海実習を通して安全・安心を徹底する。	・乗船実習時、前における集合操練を実施するとともに、救急コール携帯の徹底を図る。		
	組織・運営と連携し、小中学校の体験航海の増大を図ると共に一般団体の体験航海も受け入れる。	・組織・運営と打合せをし、年間の体験航海を増大させる。		
	船舶コース・学校外機関と連携しアカムツの改良網について研究する。	・実習担当教員と連携を深め、知識や技術の向上に努める。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
寮・下宿運営部	教員間での協力、連携を強化し安心、安全な寮・下宿生の生活支援体制の構築する。	・寮・下宿運営業務の効率化を図るとともに、負担の軽減と平準化を図り、継続的な支援体制を構築する。		
	保護者や地域の方々への理解や安心につなげられるよう寮・下宿での生活の様子をHPにて定期的に発信する	・寮・下宿含め月3回を目標にHPホームページでの発信を行う。		
第1学年部	家庭学習の習慣を定着させ、学年全体の学力伸長を図る。	・進学補習への参加働きかけ、定期考査前の居残り学習等を実施する。		
	希望進路実現を見据え、個に応じた適正な学科・コース選択につなげるとともに、資格・検定実績を伸ばす。	・資格・検定試験前の補習等（学年部からのサポート）を実施する。		
	社会人として必要とされる礼儀・マナーの定着を図る。	・担任を中心とした日常的な声かけを行う。		
	いじめ・暴力等、人権に関わる問題事象を許さない集団づくりを進める。	・学年集会等をとおして、未然防止指導を行う。		
第2学年部	教科・分掌等と連携を図り、学習に関する基礎的環境整備と個に応じた指導に努める。	・学力向上の取組を行い、成績上位者数の増加を目指す。		
	希望進路実現に向け、保護者と連携を図り、丁寧な指導を心掛ける。	・2年学年末までに希望進路の決定100%を目指す。		
	日々の学校生活を大切に過ごし、基本的な生活習慣の確立を目指し、適切に行動できる生徒を育てる。	・各教科や分掌と連携を図り、授業中の居眠りや提出物の未提出者の減少を目指す。		
	規範意識を高めるとともに人権を尊重する心を育て、良好な学校生活が過ごせるように努める。	・親元を離れて生活している生徒（寮生・下宿生）に対して個別面談を実施し、寮生活や下宿生活の向上を目指す。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第3学年部	学力向上と卒業後に必要な学力や知識の定着に向け、学習を継続する姿勢を身に付けさせる。	・年間を通して、授業・家庭学習等の学習に向かう姿勢を向上させる。		
	希望進路の実現に向け、自ら進路を切り開くようサポートし、進路先でも主体的にキャリアアップを図る力を身に付けさせる。	・関係分掌、学科・コース等と連携を深め、希望進路を実現させる。		
	学校生活を通して、社会人として必要な資質や主体性を身に付けさせる。	・生徒会や委員会活動等を活用し、生徒間の規範意識の向上を図る。		
	さまざまな教育活動を通して、他者理解を深め、多様な人々と円滑に協働できる資質と能力を育む。	・生徒会・委員会活動やHR活動を通して、他者理解を深め、多様な人々と協働する学習機会を積極的に設ける。		
海洋科学科	個に応じた指導・学びを充実させ、学びに向かう主体性を育とともに、進路選択・決定における自己実現を支援する。	・進路面談、面接練習等を通して、きめ細かな進路指導を実施する。 ・第3学年において、希望進路を実現させる。		
	教育のデジタル化に対応しつつ、協同的・対話的な学びを促進し、令和4年度新学習指導要領全面実施や観点別評価についての研修を深める。	・2年「キャリアチャレンジⅡ（総合的な探究の時間）」の運用方法を検討する。		
航海船舶コース	専門性の高い資格・検定に挑戦することにより、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせるとともに、専門性の涵養に努める。	・補習等を放課後や長期休業中に行い、自ら学ぶ場を提供する。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
海洋技術コース	マリンエンジニアに関わる専門性の高い教科指導等により、将来のスペシャリストを目指す。	・国家試験潜水士合格率を高めるとともに、潜水技術検定1級の取得を推進し、昨年度に迫る実績を残す。		
	校内外における連携強化により、特色ある実習製品のブランド価値向上とエコサイクルの確立を目指す。	・ヒトデ・ウニ堆肥の連携生産の機会と販売量を増やし、エコサイクルを促進する。		
	企業見学や業務体験、講演等により生徒の専門性や進路意識の向上を図り、希望進路の実現を目指す。	・海洋技術コースに関連する企業見学や業務体験、講演等を生徒対象に実施し、コースに関わる進路指導へと繋げるとともに、教員研修の機会を増やすことで、指導力の向上に努める。		
栽培環境コース	水産増養殖に関する高い専門性を教授することにより、水産業の現場で活躍できる人材を育成する。	・増養殖に関わる資格取得を推進し、知識・技術の習得に繋げる。 (小型船舶1級・2級、栽培検定1級・2級、漁業技術検定、潜水士等)		
	個別相談や他分掌との連携を図りながら適切なアドバイスを行い、希望進路実現を目指す。	・進路に関する個人面談をコースとして実施し、適切なアドバイスを行いながら個々の希望進路実現につなげる。		
	ICT機器を活用したスマート水産業に関する実習や講演会等を実施することで、次世代の増養殖業において活躍できる人材の育成を目指す。	・スマート水産業に関わる実習や講演会等を行うことにより、次世代の増養殖業において活躍できる人材の育成を目指す。		
食品経済コース	コンテストや外部イベント等での入賞を目指し、生徒募集につなげる。	・外部コンテストに積極的に参加し、地域食材の発信に繋げる。 ・外部イベントに積極的に参加し、地域の経済発展に繋げる。		
	関係諸機関との連携を推進するとともに、生徒の声を積極的に取り入れる努力をする。	・地元の低利用資源を活用した高校生レストランや子ども食堂を実施する。		
	コース内での研修を十分に行い、チームとして希望進路実現を目指す。	・定期的に研修会を実施し、知識・技能の伝承を行う。 ・京都府内関連企業への就職を推進する。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	基礎学力の定着と国語に対する関心・意欲を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定及び文章検定の受検を促し、語彙力や文章力の向上に努める。年間を通し、漢字検定3級以上の合格者を25人以上、文章検定の合格者を15名以上を目指す。 図書館活動の充実及び、読書活動の推進を目指す。年間を通し、学期毎に1度図書館を利用した活動を行う。また、第2学年においてはブックトークやビブリオバトルを行い、読書活動の推進に努める。 新学習指導要領の実施に向け、評価の充実を図る。国語科内で評価規準を検討し、評価の観点を具体化する。また、評価の規準について、ルーブリック評価表などを利用し生徒に提示することで、指導と評価の一体化を目指す。 		
地歴・公民科	<p>新学習指導要領が重視する学力観に基づき、国際社会で生きる日本人としての意識を涵養できるようにする。また、観点別学習状況の評価を充実させ、全ての生徒に確かな学力を身に付けさせるとともに、地歴・公民科に対する関心意欲態度を醸成する。</p> <p>観点別評価に重点を置き、思考力・判断力・表現力を高める指導力を向上させ、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ニュース時事能力検定における合格率を向上させる。 定期的に小テストを実施し、学力定着に取り組む。 アクティブ・ラーニングの実践により、授業満足度を高める工夫に努める。 実践的な発表授業を実践し、生徒自身の自発性を高める。 		
数学科	<p>数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。また、検定合格に向けた学習を通して、苦手分野を克服するとともに、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。</p> <p>観点別評価や生徒の学力向上を意識した授業改善に取り組む。</p>	<p>以下の3項目の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学検定受検生徒数の増加 数学検定準2級の合格率の向上 数学検定の新規合格者数の増加 <p>以下の5項目の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観点別評価による成績算出の試行 提出物が出せない生徒への指導の徹底 定期的な小テスト、単元テストの実施 指導内容を精選したメリハリのある授業の実践 スタディサプリを用いた予習・復習の指導 		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
理科	理科の授業を通じて論理的な思考力・判断力の醸成に努めるために、BYODを見据えたICT教材の利用の推進や観点別評価など授業内容の質を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 理科室の電子黒板や教室のプロジェクターを用いた授業展開として、スライドの活用や思考活動、演示実験の一環として動画を用いるなどの授業を、昨年度より多く取り入れて生徒の理解の深化を図る。 令和4年度に先駆けて観点別評価による成績を行うために、これまで以上に定期考査や提出物、実験のレポートやプリントなど、さまざまなアプローチで生徒を評価することに努める。 		
	<p>継続的な体力向上の取組の実施</p> <p>授業規律の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に体力の向上に向けた取組（1分間倒立、5分間走）を実施し、個人の状況に合わせた指導を行い継続的な体力の向上に努める。 毎回授業の開始時に服装、身だしなみの点検指導を行い、生徒の授業に向かう意識の向上に努める。 		
英語科	生徒の学びに向かう姿勢を育み、基礎力の定着を図るとともに、4技能5領域を意識した学習指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション・スピーキングテストなど、パフォーマンス課題を与えることにより、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。 4技能5領域の英語力を高めるため、実用英語技能検定やGTECの受検を促し、英検の合格者数の増加を図る。 		
家庭科	生活的自立の能力を形成するために、自ら考え判断できる力と他と共存できる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活に関する基礎知識の学習プリント記入状況を確認し、学習内容の定着を把握する。 自立に向けての実習をできるだけ多く取り入れ、体験的に学ばせる。 		
BYOD運営	令和4年度導入の1人1台端末配備に向けての準備をする。ICT活用に関する研修を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備、点検と活用状況を把握する。 <ol style="list-style-type: none"> ①利用規程の策定 ②機器の管理方法の確立 ③活用状況の把握 		
		<ul style="list-style-type: none"> 活用方法に関する情報収集を積極的に行い、校内研修を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ①先進校の事例研究 ②校内研修の実施（各学期1回以上） 		